

佐賀県医療センター好生館看護学院 令和4年度自己評価

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出来ている	出来ていない
学校運営	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、教職員に理解され看護学院の年度目標に反映しているか。	好生館の中期目標及び学院の教育理念、教育目的に沿って、組織目標を設定し、学校運営に当たっている。 特に国家試験全員合格及び県内就職率の向上については、組織目標として教職員全員が協力して取り組んだ。	○		
学校運営	2	学院の運営に関する委員会の目的が明確であり、十分に検討されているか。また、決定事項は周知徹底できているか。	学院運営の基本的項目については毎月2回開催する運営会議で全て議論し、決定している。運営会議の結果は各学科とも教務会議を行い各教員に周知している。 また法人(病院)全体の重要事項を議論する好生館の統括責任者会議の結果についても、必要なものは職員に周知している。 このほか、入学式等全職員の共同での作業が必要なものについては職員会議を行い、情報を共有している。	○		
学校運営	3	より良い学生を確保するために、入学生の募集活動の充実を図り、志願者数の増につなげているか。	志願者を確保するために、次のような取り組みを行い、助産学科で5倍強、看護学科で約3倍の受験倍率を確保した。 ・一昨年内容を一新した学院の紹介パンフレットについては12ページから16ページと更に内容を充実させた。各高校と希望者だけでなく受験生が勉強する図書館にも配置を依頼した。パンフレット置場を再整備した佐賀駅バスセンターでも10月からの半年で約150冊を配付することができた。 ・ホームページについても随時更新を行い、情報発信に努めた。 ・県内の普通科高校の進路指導室を訪問し、学院のPRを行うとともに、学生の進学希望状況の情報収集を行った。 ・学校説明会（オープンキャンパス）については、助産学科が4日間で延べ4回開催し、53人、看護学科が4日間で延べ10回開催し、140人の参加があった。 ・学校説明会では、1回あたり15人程度に参加人数を制限し、在校生と交流できるようにしていることが好評であった。 ・看護学科では面接時間を確保するために2段階選抜（1次試験(学科)、2次試験(面接)）を実施している。 ・看護学科での2段階選抜の導入が面接時間の確保につながったことから令和4年度から助産学科でも2段階選抜を導入した。	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			<ul style="list-style-type: none"> ・助産学科では受験しやすいように土曜日に試験を実施している。 ・優秀な学生を確保するために、以前実施していた集団面接ではなく個別面接を行っている。 ・面接時間の設定の際には、遠隔地の受験生に配慮した。 ・サガラボや専門学校ナビを活用した広報に努めた。（佐賀県事業） ・佐賀県が主宰した専修学校を紹介する校内ガイダンスのうち当学院への進学実績がある高校の校内ガイダンスに参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・鹿島高校(赤門) 7/13 ・小城高校 8/18 ・唐津西高校 7/ 1 ・白石高校(普通科) 10/11 ・佐賀清和 12/23 			
学校運営	4	卒業生の県内就職率を高めるために、学生への情報提供等が充実するよう工夫をしているか。	<p>（助産学科）</p> <p>入学時よりクラス全体に県内就職情報を提供するとともに、学生一人一人に面接を行い、県内就職を推奨している。県内の病院及び診療所の募集要項が送付された場合は速やかに学生へ周知している。</p> <p>学生が希望する令和4年度の県内就職率は75%と令和3年度（83%）をやや下回った。</p> <p>（看護学科）</p> <p>佐賀県内の就職情報を積極的に紹介するとともに個人面接や学生から相談を受けた際には県内就職を推奨している。令和4年度の県内就職率は78.1%だった。</p>		○	
学校運営	5	災害など非常時に学校活動が継続できる体制が整っているか。	<p>非常時に学校活動を継続させるために、次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時にLINEを使って学生に連絡できる体制を整え、実際に通報訓練も行った。なお、緊急時は学院に登校せず、自宅スマホから送信できるようにしてる。 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延による休校、学生が濃厚接触者になった場合など、学生が学院に登校できないときに、Zoomを使った遠隔授業を行う体制を整え、実際に一部実施した。 ・災害時に備え、備蓄用ご飯、乾パン、水の備蓄を行っている。 ・災害時に帰宅できない学生を学内に一時宿泊させることとしている。 	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
学校運営	6	新カリキュラムに基づいた講義や実習を行うために必要な施設整備を行っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。	<p>(助産学科)</p> <p>次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助前後の臨床判断能力や介助技術の向上を目的に分娩介助シミュレーターを購入した。 ・助産学科を閉科するアカデミー看護学院から超音波診断装置、分娩台、分娩介助モデル等の機器の譲渡を受けた。これらを演習等で活用することで学生が経験する頻度が増やすことができた。 <p>(看護学科)</p> <p>次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からの電子教科書導入を見据え、iPadの共同購入、情報管理室へのWI-FI整備等の準備を進めた。 ・臨床判断能力の育成のため、シミュレーション教育の充実を目的にハイブリッドシミュレーターやデブリーフィングシステムを購入した。また、好生館より、人工呼吸器、心電図モニター、除細動器等の移管を受け、より臨場感の高い学習環境となった。実際に、精神看護学・成人看護学・老年看護学の学内実習ではシミュレーションルームを使用し、シミュレーションを行った。 ・外壁改修工事の音のため図書室での自主学習が困難な日は食堂を自主学習の場として提供した。 ・教員が授業研究や学生指導を行う時間を確保するために、校務支援システムを3月末に導入した。 	○		
学校施設	7	図書室の整備や福利厚生施設の整備等、学生のための環境整備は行われているか	<p>学生のための環境整備として次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室棟3階のトイレ4基を温水洗浄便座に改修した。これにより3階のトイレは全て温水洗浄便座になった。 <p>(参考)</p> <p>2階（5基中1基洋式、4基和式→R5年度夏休みに工事予定）</p> <p>1階（5基中1基洋式、4基和式→R6年度夏休みに工事予定）</p> <p>学生寮 温水洗浄便座に改修済み</p>	○		
教育活動	8	卒業時において持つべき看護師・助産師の能力を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	<p>(助産学科)</p> <p>教育目標をシラバス、実習要綱、学生便覧に明示している。</p> <p>科目ごとにシラバスに沿った客観式テスト又は論文体試験の実施及び分娩介助技術評価（前期2回、後期1回）を実施し、客観的評価を行った。</p> <p>形成的評価に加え、卒業時に分娩介助技術評価、総合評価、</p>	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			<p>実習記録についての評価・分析を行い、年度末の実習指導者会議においてその内容を確認した。</p> <p>全国助産師教育協議会の「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と達成度」に基づいて3月に学生の自己評価を行っている。</p> <p>（看護学科）</p> <p>入学時及び各学年の初めにシラバスを用いて教育目標の説明を行い、浸透を図っている。</p> <p>3年次には知識・技術・態度を統合した臨床実践能力を客観的に測るためOCSEを行い、卒業時のレベルに到達していないと判断した場合は繰り返し指導を行った。</p> <p>また、実習では3年間の実習を振り返り、その学びを主たる実習施設である好生館に伝え課題を話し合っている。さらに、キャリア論の中で3年間の成長を自己評価するとともに、教員からの客観的評価も行っている。</p>			
教育活動	9	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	<p>教育理念・教育目標に沿い、講義・実習を行うとともに、時代の要請に応じ構成した以下のような新カリキュラムを実施した。</p> <p>（助産学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> 産後うつによる自殺率の上昇が問題となっている中、助産師には地域における子育て世代を包括的に支援していく能力が求められるため、新たに助産所1か所、産前産後サポートステーションの実習施設を確保し、地域母子保健実習を1単位として独立させた。 妊娠前からの女性の健康についての重要性が求められているため、プレコンセプションケアとして新たに1単位新設した。 <p>（看護学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ学生を育てるために、「教育学」の講義を入学直後の時期に導入した。また、医療の場が地域に移行している現状を鑑み、地域と地域に暮らす人々を理解するため1年次に「地域と暮らし」を新設した。 家族看護の重要性を考え「家族看護論」を新設した。 看護について深く考え、追求するため「看護の探究」を新設した。講義の中で課題として出した「私の看護観」を全国看護学生作文コンクールに応募し、2200作品の中から1名が審査員特別賞、2名が佳作に選出され、団体として当学院が最優秀団体賞を受賞した。 	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			<ul style="list-style-type: none"> 臨床実践能力を段階的に育成するため、1～3年に渡って「看護統合実践」を設定した。 佐賀県医療センター好生館の専門看護師・認定看護師に講義を依頼し、専門性の高い講義を実施した。 			
教育活動	10	授業計画は、教育課程との整合性があり、授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善されているか。	<p>（助産学科）</p> <p>入学時にシラバスに沿って教育計画について説明し、学生が授業内容を理解できるようにしている。</p> <p>講義は正常から異常へ、妊娠期から分娩期、産褥・新生児期へと学生が理解しやすい順序となるよう時間割を調整している。</p> <p>臨床での助産実践を想定し、学生自ら考え実践するアクティブラーニングを導入している。</p> <p>また、実習前にシミュレーション学習を活用し、臨床判断能力の向上に努めた。</p> <p>（看護学科）</p> <p>教育課程に沿った授業計画を作成している。</p> <p>特に概論から各論、疾患から看護など、学生が理解しやすく、且つ学びの積み上げができるよう順序を考え時間割を組んだ。</p> <p>また、各実習に必要な講義は実習までに受講するよう進度を工夫し、実習で知識・技術が活用できるようにした。さらに各学年の進度に合わせて授業内容を構成し、学生の理解度を確認しながら授業を進めた。</p>	○		
教育活動	11	単位認定の方法（評価基準や方法等）を、各科目担当者が理解しており、評価については妥当であるか。	<p>（助産学科）</p> <p>外部講師にも評価基準・方法を説明し理解を得ている。学院教員と共に妥当な評価を実施している。</p> <p>（看護学科）</p> <p>昨年度見直した評価計画を基に外部講師・学院教員共に妥当な評価を実施している。</p>	○		
教育活動	12	実習目標が達成できるよう実習施設との連携を行い、学生を支援する体制は整っているか。実習計画は施設に周知されているか	<p>（助産学科）</p> <p>実習要綱及び実習指導要綱を実習指導者に配布し、実習目標を共有している。実習開始前に各実習施設に出向き、打合せを行っている。また、3月に8医療機関と助産学実習評価会議を行い、実習全体の評価を指導者と共有し、次年度の実習指導に役立てている。</p> <p>（看護学科）</p> <p>実習要綱を実習指導者に配布するとともに実習領域毎に実習開始前の実習指導者会議を行い、実習目標や指導方法の共通理解を行っている。実習中は施設の実習指導者とコミュ</p>	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			ニケーションをとり実習計画や指導法負の調整などを行った。実習終了後に各医療機関と実習まとめの会議を行い、実習全体の評価を指導者と共有し、次年度の実習指導に役立っている。			
教育活動	13	教員は実習時のインシデント事例や感染リスク等について把握・分析を行い、学生指導に生かしているか。	<p>過去のインシデントの集計結果から学生のインシデントの傾向を把握し看護学科教員全体で共有した。実習ではインシデントを起こしやすい時期に学生に注意喚起を促す働きかけを行っている。</p> <p>事前にこれらの取り組みを行った結果、各学科の発生状況は次のとおりとなった。</p> <p>（助産学科）</p> <p>令和4年度のインシデントは6件であった。</p> <p>内容は実習記録管理、物品管理、新型コロナウイルス感染防止の対応などであった。うち1例はマニュアルに沿い施設に報告し対応した。</p> <p>インシデント発生時は、学生と教員で原因分析を行い、対策をとることで再発防止に努めた。</p> <p>（看護学科）</p> <p>令和4年度のインシデントは14件であった。内容は実習記録物やUSBの一時紛失、不適切な発言等でいずれもレベル0～1だった。</p> <p>インシデント発生時は、学生と教員で原因分析を行い、対策をとることで再発防止に努めた。</p>	○		
教育活動	14	国試合格100%を目指し、取り組んでいるか	<p>（助産学科）</p> <p>次のような取組みを行い、6年連続で国家試験合格率100%となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前から国家試験の過去問題を提供し、学生の意識を高めている。 ・入学後は国試対策の時間を設けて指導し、毎月学生の学習状況を把握し、個々の学生に合わせたサポートを行った。また9月～2月に10回の模擬試験を行い、結果について教員と学生で分析し、不得意分野の攻略法を指導している。 ・個々の学生の個人差があり、最終の模擬試験でも成績が伸び悩む学生もいたが、個々の学生のサポートに力を入れている。 <p>（看護学科）</p> <p>次のような取組みを行い、学生アンケートにおける学院の国家試験対策への満足度は93.8%に上るとともに、2年連続</p>	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出来ている	出来ていない
			<p>で国家試験合格率 100%となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の国家試験対策委員と教員で構成する国家試験委員会を定期的で開催した。委員会を立ち上げた令和3年度は教員主導だったが、今年度は国家試験対策委員が自らクラスへの働きかけ方を工夫するなど、少しずつ学生主体の取り組みに変化している。 ・国家試験までのカウントダウンを全学生が見える場所に掲示した。 ・成績が低迷していた学生に対してはチューター制を取り学習を支援した。 ・各教員が担当領域の国家試験対策講義を実施した。 			
教育活動	15	教員に各種研修会への参加、研究調査活動の機会を与えるとともに、教員自身も自己研鑽に努めているか	<p>（助産学科）</p> <p>全国助産師教育協議会のオンライン研修をはじめ、関連する学会や研修などにも積極的に受講しており全員自己研鑽に努めている。</p> <p>また、助産師教育に関する全助教のセカンドステージ研修、学生と共に性教育セミナーや母体救命研修などを受講し新しい知識を取り入れている。</p> <p>（看護学科）</p> <p>教員9名全員が教育関連、専門領域の研修会に参加し研鑽を積んだ。特にシミュレーション教育の実施に向け、各自が学習を深めている。</p>	○		
教育活動	16	授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	<p>（助産学科・看護学科）</p> <p>学生による授業評価又は教員同士の他者評価等を実施している。</p> <p>また、授業評価は内容の理解、教員の授業姿勢、資料について行い、評価結果を基に授業を継続的に改善していった。</p>	○		
学生支援	17	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	<p>（助産学科）</p> <p>入学時オリエンテーションで早目の就職活動を促すとともに、学生全員に個別面接をしている。</p> <p>また、今年度はジョブカフェや企業のマイナビの研修を取り入れ現在の就職活動の実際に触れる機会を設けた。学生一人一人の要望に応じて、履歴書作成、論文や面接の指導を行うなど就職内定までサポートしている。</p> <p>（看護学科）</p> <p>1年次より定期的に面接を行い、進路のアドバイスを行っている。就職試験対策としては履歴書作成指導、小論文指導、面接練習など一人一人に対し丁寧にサポートを行った。</p>	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			その結果、学生アンケートの結果では97%（32名）の学生が「十分な支援を受けた」「まあまあな支援を受けた」と回答し、「あまり受けなかった」とした学生は3%（1名）だった。			
学生支援	18	学生等の健康管理の充実を図るための体制の充実が図られている。	<p>（共通）</p> <p>入学時に過去のワクチン接種状況を確認し、接種されていない場合は、入学後接種させている。</p> <p>インフルエンザワクチンについても毎年好生館で接種させている。</p> <p>新型コロナウイルスワクチンについても、好生館で接種できるようにした。</p> <p>（助産学科）</p> <p>対象が妊婦や新生児であるため、体調管理には留意するようオリエンテーションや日常生活指導を行った。</p> <p>（看護学科）</p> <p>定期健康診断で異常が見られた学生には受診勧奨や生活指導を行っている。また、感染予防の指導を行い、感染症が疑われる場合は受診を勧め拡大防止に努めている。</p>	○		
学生支援	19	学生等に対する心のケアを図るなど、生活支援の充実がなされているか。	<p>（共通）</p> <p>スクールカウンセラーへの相談を周りで見られることなく申し込めるように、申し込み表を通路から進路指導室内に移転させた。</p> <p>（助産学科）</p> <p>実習中のメンタルの不調を訴える学生もおり、スクールカウンセラーとの面談、教員との面談を重ね、必要時は校医の精神科医に相談することでその後は不調を訴えることなく卒業を迎えた。</p> <p>（看護学科）</p> <p>気になる学生については早めに声をかけるとともに必要時はスクールカウンセリングを勧めた。</p>	○		
学生支援	20	経済的に安心して学業に専念できるよう支援の充実がなされているか。	<p>給付型奨学金の機関認定について継続認定を受けた。（助産学科も対象）</p> <p>令和4年度は27人の学生が給付型奨学金を受給した。（助産学科は対象者無し）</p> <p>給付型奨学金の受給者に対しては、入学金・授業料の減免も行った。</p> <p>さらに、好生館独自の奨学金制度（月額5万円、就職後返還免除有）を設けており、令和4年度は18人が貸与を受け</p>	○		

分野	項番	評価項目	取り組み実績（令和4年度）	自己評価		
				出来ている	一部出 来ている	出来 てい ない
			<p>た。</p> <p>好生館が募集する夕方勤務のナースエイド（時給 1,250円）を学生に紹介した。</p> <p>助産学科に進学する社会人経験者に対する専門実践教育訓練給付金制度の学校指定を受け、令和4年度入学生から適用されることになり、4名が受給した。</p>			
学生生活	21	交歓会や学院祭、クラブ活動などを通じて学生相互の交流が図られるよう、支援しているか。	<p>令和4年度は感染対策をしながら交歓会、学院祭を例年通りの規模で実施することができ、学年間・学科間の交流を図ることができた。</p> <p>また、看護学科1年生に対し助産学科学生によるピア講義を行った。</p>	○		
学生生活	22	地域住民を対象とした好生館のイベントや地域のボランティアに教員・学生は積極的に参加しているか。	<p>看護学科の学生は兵庫地区の児童クラブ、高齢者サロン、障害者施設でのボランティアに意欲的に参加している。令和4年度も1年生全員何らかのボランティア活動を行った。</p> <p>また、福岡県八女市星野村に保存されている原爆の残り火「平和の火」を北九州市から長崎市まで看護学校学生がリレー形式で歩いてつなぐ「ナイチンゲール平和の灯運動」に学生6人、教員4人が参加した。</p>	○		